

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
平成30年度における業務の実績に関する評価結果

令和元年8月

山形県・酒田市

目 次

1	評価対象法人の概要	2
2	評価の実施根拠法	2
3	評価の対象	2
4	評価の趣旨	3
5	評価方法の概要	
	（1）評価基準	3
	（2）評価の手法	3
6	評価結果	
	（1）総合的な評定	4
	（2）中期目標期間における財務情報及び人員に関する情報	5
	（3）年度計画の各項目ごとの評定	
	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置	5
	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
	第3 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画	7
	第4 短期借入金の限度額	7
	第5 剰余金の使途	8
	第6 料金に関する事項	8
	第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	9
	（4）業務運営の改善その他の措置の必要性	9
	地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成30年度業務実績に関する評価基準	10
	参考資料 平成30年度実績に関する評価（項目別評価シート）	11

1 法人の概要

- | | |
|-------------|--|
| (1) 法人名等 | 名 称 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
代 表 理事長 栗谷 義樹
住 所 山形県酒田市あきほ町30番地 |
| (2) 設立年月日 | 平成20年4月1日 |
| (3) 設立団体 | 山形県及び酒田市 |
| (4) 資本金の額 | 172億3066万2678円（平成30年3月31日変更） |
| (5) 中期目標の期間 | 平成28年度から令和元年度（4年間） |
| (6) 目的及び業務 | |

ア 目的

地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

イ 業務

- ① 医療の提供に関すること。
- ② 医療に関する調査及び研究に関すること。
- ③ 医療に関する技術者の研修に関すること。
- ④ 医療に関する地域への支援に関すること。
- ⑤ 災害時における医療救護に関すること。
- ⑥ 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

2 評価の実施根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項

3 評価の対象

平成30年度における地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の年度計画に対する実績の状況

※年度計画・・・中期計画に基づき、当該年度における業務運営に関する計画を定めたもの

4 評価の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構（以下「病院機構」という。）が、庄内地域の中核病院である日本海総合病院及び日本海酒田リハビリテーション病院並びに日本海八幡クリニック、升田診療所、青沢診療所、松山診療所、地見興屋診療所及び飛島診療所（以下「日本海八幡クリニック等診療所」という。）を運営するにあたり、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上及び業務運営の効率化等について自主的、継続的な見直し及び改善を促すことを目的に、設立団体である山形県及び酒田市が業務の実績評価を行う。

5 評価方法の概要

(1) 評価基準

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成30年度業務実績に関する評価基準。（別紙のとおり）

(2) 評価の手法

病院機構の自己評価結果及びこれに対する地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会の参考意見を聴取し、これらを基に評価する。

【評価委員会】（令和元年7月26日現在、1名欠員）

委員名	氏名	役職等
委員長	嘉山孝正	山形大学医学部参与 山形大学医学部先進医学講座 特任教授
副委員長	八重樫伸生	東北大学大学院医学系研究科長 東北大学医学部長
委員	堀千秋	酒田市地域包括支援センターほくぶセンター長
委員	佐藤正一	日本公認会計士協会山形県会
委員	齋藤好正	山形県医師会（酒田地区医師会十全堂顧問）

（敬称略：順不同）

6 評価結果

(1) 総合的な評定

山形県及び酒田市は、病院機構から提出された、平成30年度計画に係る事業報告書及び評価基準により自己評定した結果について、適正な評価であると認め、総合的には「非常に優れている」ものとして評価する。

平成30年度は、第3期中期目標期間の3年目にあたる。

日本海総合病院については、救命救急センターや地域医療支援病院等の指定を受ける地域の中核病院として、専門医を配置するなど、安全で高度かつ専門的な急性期医療の提供がなされ、また、高度専門的ながん医療を提供するため高精度放射線装置の導入に向け放射線治療棟の整備が行われている。日本海酒田リハビリテーション病院は、理学療法士等の増員などにより、休日を含めたリハビリテーションの提供体制を整えるなど地域のニーズに応じた回復期・慢性期医療が提供なされている。日本海八幡クリニック等診療所は、平成30年4月に酒田市から移管統合され、それぞれの地域における唯一の医療機関として、日常的な病気やけが等の患者への一次医療の提供がなされている。

また、平成30年4月に設立された「地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネット」への参画等、地域の医療機関をはじめ、保健、福祉、介護の各機関との連携の推進を図り、効果的な業務運営が行われている。さらに、職員配置、就労環境の整備においては、医事クラーク、認定看護師等の適所配置、院内保育所の24時間保育、病児・病後児保育の継続及び患者ニーズを踏まえた勤務時間帯の見直しなど、スタッフの確保と業務負担軽減への取組みが積極的に行われている。特に、医療人材の確保・育成については、新専門医制度における基幹施設として、内科専攻医4名を採用するとともに、臨床研修医、レジデント、スチューデントドクター及び地域医療実習生を継続して受け入れ、医師育成と医学生の教育に努めている。

経営面では、日本海総合病院における診療報酬上の新たな加算（施設基準）の算定や、日本海酒田リハビリテーション病院における提供リハビリ単位数の増加等、収入確保・費用低減に努め、病院機構全体としては、設立初年度から11年間連続して黒字決算を計上し、中期計画の目標である経常収支比率100%以上が引き続き達成され、効率的な運営が行われている。

以上、平成30年度計画における業務の実績は、引き続き良好であり、病院機構の業務運営に対する努力について、設立団体として非常に高く評価するものである。

評価した項目数

総項目数 95項目 【評価 S：6、A：24、B：65、C：0、D：0】

(2) 中期目標期間における財務情報及び人員に関する情報

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
総収益（百万円）	20,003	21,322	22,244	—
総費用（百万円）	19,417	20,515	21,500	—
純利益（百万円）	587	808	744	—
常勤職員数（人）	1,040	1,061	1,104	—

※（3）の項目ごとに算出することが困難であるため、全体の情報を記載。

(3) 年度計画の項目毎の評定

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 評定

年度計画に対する実績は概ね計画に合致している。

イ 理由

病院及び診療所の医療機能の分担により効率的かつ効果的な業務運営を図るとともに、庄内地域の中核病院として地域医療水準の向上に努めている。

ウ 評価した項目

① 項目数

69項目 【評価 S：4、A：19、B：46、C：0、D：0】

② 特筆すべき項目

- ・ 庄内二次医療圏で唯一の救命救急センターとして、24時間365日、地域に信頼される医療の提供に努め、また、機能強化のため、酒田地区医師会十全堂との連携により平日夜間救急外来の診療体制を確保している。
- ・ 日本海酒田リハビリテーション病院では、理学療法士等の増員等により、休日を含めたリハビリテーションの提供体制の充実に努めている。
- ・ 新専門医制度による内科及び産婦人科の基幹施設として、専門研修プログラムの管理運営を行うとともに、内科専攻医を採用している。また、外科の基幹施設として認定を受けている。

- ・ 他の医療機関との役割分担及び連携を進めた結果、地域医療支援病院の指定要件となっている、紹介率・逆紹介率に係る目標値を大幅に上回っている。
- ・ 効率的で適切な医療やケアを提供するため、「地域医療連携推進法人日本海ヘルスケアネット」への参画及び地域医療情報ネットワーク等の ICT を活用し、他の医療機関や介護・福祉施設等との診療情報の共有化等地域医療の連携強化の推進を図っている。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 評 定

年度計画に対する実績は概ね計画に合致している。

イ 理 由

診療体制の強化、人員配置の弾力的運用に努め、診療報酬改定等をはじめ各種制度の変化に迅速に対応するなど、収益の確保に努めている。

ウ 評価した項目

① 項目数

8項目 【評価 S：0、A：3、B：5、C：0、D：0】

② 特筆すべき項目

- ・ 医療需要の変化等に迅速かつ的確に対応するため日本海総合病院では医療メディエーション室及び遺伝カウンセリング室を新たに設置するなど、人員配置を弾力的に運用することにより、患者ニーズへの対応に努めている。
- ・ 経営基盤の安定化に向けて設定した各目標値については、日本海総合病院では、目標値を全て上回っている。日本海酒田リハビリテーション病院では、患者一人当たりの診療単価については目標値を上回っている。
- ・ 新たな施設基準(後発医薬品使用体制加算1、入院時支援加算、医療安全対策地域連携加算1等)の取得により増収を図っている。

第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

日本海総合病院、日本海酒田リハビリテーション病院及び診療所を含む病院機構全体で、営業収支比率と経常収支比率の目標を達成している。

ウ 評価した項目

① 項目数

1項目 【評価 S：0、A：1、B：0、C：0、D：0】

② 特筆すべき項目

病院機構全体で、経常収支比率103.4%と目標値を上回っている。

第4 短期借入金の限度額

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

短期借入金の実績なし。

ウ 評価した項目

① 項目数

1項目 【評価 S：1、A：0、B：0、C：0、D：0】

② 特筆すべき項目

計画的な資金収支に努めたため、短期借入金の必要がなかった。

第5 剰余金の使途

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

決算剰余金については、建設改良積立金に充当し将来の施設整備及び医療機器の整備に備えている。

ウ 評価した項目

① 項目数

1項目 【評価 S : 1、A : 0、B : 0、C : 0、D : 0】

② 特筆すべき項目

病院施設の整備に充てるため建設改良積立金に充当している。

第6 料金に関する事項

ア 評 定

年度計画に対する実績は概ね計画に合致している。

イ 理 由

病院機構の規定に基づき料金徴収を行っている。

ウ 評価した項目

① 項目数

2項目 【評価 S : 0、A : 0、B : 2、C : 0、D : 0】

② 特筆すべき項目

病院機構の規定に基づき適切に使用料を徴収している。

第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

ア 評 定

年度計画に対する実績は概ね計画に合致している。

イ 理 由

職員の就労環境の整備等については、職員一人ひとりがそれぞれの分野で専門知識や能力を十分に発揮できるよう多職種によるチーム医療の推進に努めている。

ウ 評価した項目

① 項目数

13項目 【評価 S：0、A：1、B：12、C：0、D：0】

② 特筆すべき項目

- ・ 医師、看護師、薬剤師等、多職種によるチーム医療を推進するため、「がんセンターボード」を定期的を開催している。
- ・ 遺伝カウンセラーを新たに採用し、各診療科と連携を図り医療を提供している。
- ・ 職員が業務に専念できるよう、病児・病後児保育事業を継続して実施している。

(4) 業務運営の改善その他の措置の必要性

な し

【別紙】

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 平成30年度業務実績に関する評価基準

1 平成30年度業務の実績に関する評価の基本方針

平成30年度地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構年度計画について、その業務の実績について評価を行う。

2 業務の実績に関する評価の方法

計画に掲げた項目ごとに行う「項目別評価」と、業務実績全体の状況について行う「全体評価」の2つを併せて行うものとする。

(1) 項目別評価（項目別評価シート）

項目別評価は、年度計画の個別項目毎の進捗状況について、下記により評価するものとする。

- ① 業務の実施状況を幅広く把握し、可能な限り客観的な評価の実施に努める。
 - ・目標数値がある場合はその達成度合い、定性的な目標の場合は具体的な業務実績を把握して評価する。
 - ・業務実績については、その数量だけでなく、その質についても考慮する。
 - ・業務実績に影響を及ぼした要因、予期せぬ事情の変化等についても考慮する。
- ② 判定基準として以下の5段階で評価し、原則としてその理由を付記する。

（判定基準）

- 「S」 : 計画を大幅に上回っている
- 「A」 : 計画を上回っている
- 「B」 : 計画に概ね合致している
- 「C」 : 計画をやや下回っている
- 「D」 : 計画を下回っており、大幅な改善が必要

(2) 全体評価

全体評価は、(1)の項目別評価の結果を踏まえ、全体的な計画の進行状況や達成について、記述式等により評価するものとする。

平成30年度業務実績に関する評価

(項目別評価シート)